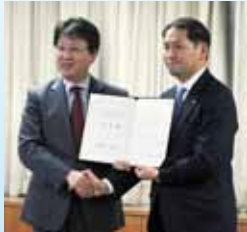


学校給食再開までの道のり

- 4月 14日 熊本地震発生により被災
- 5月 9日 学校が再開
- 16日 簡易給食を開始(国際 NGO「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」、「ワールド・ビジョン・ジャパン」が補助食品提供、その他多くの団体からの支援)
- 6月 1日 弁当による給食に切り替え
- 6日 再春館製菓所による汁物の配給を開始
- 11月 14日 子どもの給食を考える会により汁物の配給を開始
- 25日 西村町長が町内5校分の給食の調理を熊本市に要請
- 2月 17日 給食提供に関する協定を益城町議会が議決
- 27日 給食提供に関する協定を熊本市議会が議決
- 3月 29日 熊本市と給食提供に関する協定に調印
- 4月 12日 通常給食を再開



学校再開に伴い、

形を変えながら給食を提供

発災以降、臨時休校となっていた町内小中学校が5月9日から25日ぶりに授業を再開。当初は、給食なしで2時間の短縮授業でしたが、学校給食センターでは16日から簡易給食を実施しました。品目はパンと牛乳のほか、国際NGO団体の協力です。チーズやゼリーなどの補助食品を提供、学校も通常授業に戻りました。

ただ、部活動が始まると、育ち盛りの子どもたちには、簡易給食ではおなかを持たないという課題も浮かび、6月1日からは、簡易給食に代わって弁当給食の実施へと舵を切りました。

このままでは…

さらに6日からは、衛生管理上の問題による「冷たい給食」を改善するため、県の要請を受けた再春館製菓所からスープなど汁物の提供を1学期終了まで受けました。温かい汁物は2学期の後半にも、ボランティア団体から提供を受けています。

給食提供を熊本市に要請

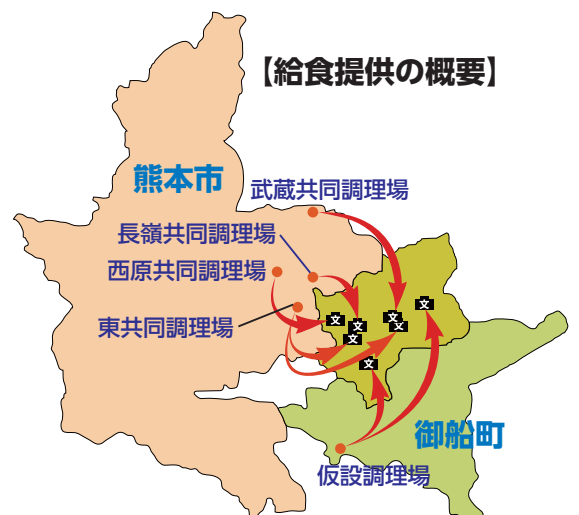
学校給食センターに復旧のめどが立たないという緊急事態に、町は5校分の給食約3,000食の調理を熊本市に要請。熊本市と益城町双方の議会の議決を経て3月29日、大西一史(おおくにし)市長と西村町長が「給食提供に関する協定」に調印しました。

また、残る2校分約300食については、御船町の民間施設を借りて町が調理します。

1年ぶりの温かい給食

4月12日、町内7校で約一年ぶりに通常給食が再開しました。最初の献立は、チンゲン菜のクリームシチューやにんじんサラダなど5品。久しぶりに届けられた、できたての温かい給食を口にした子どもたちの顔には自然と笑みが溢れ、教室はほのぼのとした空気に包まれました。子どもたちに、また、学校のお昼の楽しみが戻ってきました。

【給食提供の概要】



給食の再開にあたり、使用する食器類については「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」からご提供を受けています。また、4月から熊本市への委託給食の実施により生じる現在の給食費との差額、および地震の影響で町の給食費補助事業が廃止となったことに伴う保護者負担に対して、県PTA連合会から1,800万円の支援金をいただいています。

これから…

学校給食センターの建て替え

町では、老朽化に加え、被災により設備等が損壊した学校給食センターを、新たに用地を確保して整備する計画を進めています。

安全で安心、衛生管理のさらなる強化はもちろん、アレルギー食対応、そして今回の熊本地震による教訓を生かし、災害時の支援機能を備えた施設を一刻も早く整備できるよう取り組んでいます。